

1 単元名「これまでの学習を活かして」～木～

2 単元の目標

- 今までに学習した筆使いを振り返り、活用できる部分を考えながら「木」を書くことができる。
- 今までに学習した筆使いや文字の中心に気を付けて丁寧に書くことができる。
- 友達との学び合いを通して、お互いのがんばりに気付くことができる。

3 指導計画（全2時間）

第1時 既習の筆使いを想起し、丁寧に書く。（本時）

第2時 中心に気を付けて、丁寧に書く。

4 指導上の立場

(1) 本単元について

本単元は、第3学年及び第4学年の内容（2）ア「文字の組立て方を理解し、形を整えて書くこと」を受けて、今までに学習した筆使いを振り返り、活用できる部分を考えながら「木」を書くことをねらいにして設定した。児童はこれまでに、横画・縦画・折れ・左右の払い・はね・曲がりの筆使いを学習してきた。また、ひらがな・かたかなの文字を書く学習も2時間ずつしている。

本時では、今まで毛筆で学習してきた基本点画である、横画・縦画・払い・止めなどの中から活用できる部分を考えながら書くことをねらいとしている。また、次時では、学習したことを他の文字で使えないか問いかけたり、空書させたりすることで、活用していくことを意識させたい。

さらに、毛筆で学習したことを、日常生活でも活かしていけるように、ノート等に文字を書くときにも児童に意識づけをしていきたい。

(2) 児童の実態

本学級の児童は、毛筆の時間を楽しみにしており、毎時間意欲的に取り組んでいる。道具の準備や片付けも、徐々に手際よくできるようになってきている。また、始筆の向きに気を付けて文字を書いたり、落ち着いて運筆をしたりすることにも慣れてきている。しかしながら、一文字一文字を書くことに一生懸命で、学んだことを意識して書くことまでには至っていない。そこで、授業で習った筆使いをノートや連絡帳でも使えるように声かけをしている。

毛筆特有の筆の持ち方（筆を立てて持つことや、ひじを上げて持つこと）ができていない児童もいるので、正しい持ち方を掲示しておくとともに、机間指導の際に声をかけることで常に意識できるようにしたい。

(3) 研究主題に迫るための手立て

①めあてをもつ段階において

- ・ 試し書きの文字と手本の文字とを比べ、自分が気を付けるところを赤ペンで半紙に書き込むことで、自分のめあてをもちやすくする。特にがんばって練習したいところには、◎をすることで、自分のめあてを明確にもつことができるようにする。
- ・ 既習の筆使いが今日の文字に活かさないかを尋ね、授業で学んだことを他の書く活動にも活用する力を身に付けさせていく。

②思いや考えを伝え合い、深め合う段階において

- ・ 自分のめあてに合った練習をする場面では水書用紙を選んだときには、次に並んでいる児童がアドバイスをすることで、お互いにめあてをより意識しながら練習できるようにする。

③学びを振り返る段階において

- ・ ペアの友達とまとめ書きを見合う時間をとり、自分にはないよさを知ったり、友達から認めてもらったりすることで、お互いの進歩や努力したところを認め合えるようにする。

5 本時案（第1時）

目標	今までに学習した点画の筆使いを活用し、丁寧に書くことができる。	
学習活動	教 師 の 指 導 ・ 支 援	
1 本時のめあてをもつ。	- 教材文字を知らせ、筆の持ち方や姿勢に気を付けて、丁寧に試し書きをするように伝える。 1, 2学期に学習した文字（一, 川, 日, 人, ビル, つり）と「木」とのつながりや留意点を考えさせるようにする。（→活用）	
	今までに習ったことを活かして書こう。	
2 めあてに添って練習をする。	- 既習の文字を掲示し、横画・縦画・折れ・左右の払い・はね・曲がりの筆使いを想起できるようにする。そして、活用できる部分はないかを問いかけることによって、今までに習ったことを活かして書こうとする意識をもつことができるようにする。 - 自分が気を付けるところを赤ペンで半紙に書き込むことで、自分のめあてをもちやすくする。特に今日がんばって練習したいところには◎をすることで、自分のめあてを明確にもつことができるようにする。 - 児童それぞれのめあて別の練習用紙と練習の場（水書コーナー）準備し、児童が効果的に練習できるようにする。 - 水書コーナーでは、次に並んでいる児童からアドバイスをもらえるようにすることで、児童相互の学び合いができるようにする。 - 机間指導をしながら、努力しているところを称揚したり、めあてに添った練習ができるように個別に助言したりする。	
3 本時のまとめをする。	- 自分のめあてをペアの友達に伝えることで、めあてに添ってまとめ書きをしようとする意識をもたせるようにする。 - ペアの友達とまとめ書きを見合い、アドバイスをしたり、がんばりを見つけ合ったりすることで、結果だけではなく、過程を評価できるようにする。	
4 片付けをする。	片付け方の手順を黒板に掲示し、道具を大切に扱い、みんなで協力して、片付けができるようにする。	
評 価	今までに学習した点画の筆使いを活用し、丁寧に書こうとしたか。	